伊賀市教育研究センター　令和８年10月20日　第559号

研修ニュース

〒518-0814　三重県伊賀市上友生785番地
TEL&FAX：0595 (21) 8839　E-Mail：iga-ken@iga.ed.jp

研修講座B-6「生徒指導③」を実施しました！
「『ちょっと気になる』から始まる支援の入口～気づくこと、聴くこと、守ること～」
【講師】　伊賀市教育支援センター「ふれあい教室」カウンセラー
臨床心理士　公認心理師　　藤村　幸子さん



10月15日(木)に「生徒指導③」の研修講座を実施しました。

昨年度に引き続き、藤村カウンセラーから具体的な事例とペア・グループ学習を組み合わせながらご講演いただきました。昨年度の講演中、藤村カウンセラーから、

・先生方の「あれ、いつもと違うな」という気づきや違和感が支援の入り口となり、状況が改善されたというケースが非常に多いと体感している。
・日頃の保護者や子どもたちと先生方の関係づくりが支援のベースになる。



というお話がありました。今年度は、その「支援の入り口」となるために、私たち教員一人ひとりが知り、技術として獲得したい「支援の入り口としての聴き方」についてご教示いただきました。まずは前提となる「環境」です。場所や構造もさることながら、「子どもたちにとっては先生方も大事な環境の一つ。座り方、表情一つ子どもたちは先生方を見て、話しやすさを感じ、それが安心に繋がる」と話されました。これは早速意識しながら取り組めるものだと思います。そして「聴き方」です。子どもの変化に気づき、話を聴き始めると「どんな言葉をかけたら良いか」と私たちの心が揺さぶられ迷うこともあると思います。その時はすぐに言葉を発せず、立ち止まり「子どもに質問することをお勧めします」と話されました。子どもの今の気持ちや、少し先の事柄についてどうしたいのかを聴くことで、子どもの「今の状態をそのまま」受け取ります。それが「不安を少し軽くする」ことにつながるということでした。加えて「自分の知識や経験をアドバイスとしてそのまま伝えない」ことも一つです。つい「〇〇してみては？」と話してしまいたくなりますが、「自己開示も主体は相手に置く」ことが肝要であると教えていただきました。

研修に参加された先生方には、日々の実践に活かしていただくとともに、校内で還流していただきますよう、よろしくお願いします。

アンケートより【一部抜粋】
・ちょっとした違和感に気づくために、子どもと丁寧にかかわり、その言動の背景を深く理解していくことの大切さを改めて痛感しました。またワーク②で生徒役や先生役をしてみて、話しやすい雰囲気作りは先生の役割が大きく、相手の気持ちを聴くことやそのための話し方や聴き方が難しいなと感じました。そして自分自身の思い込みにも気づくことができ、自分の関わりもふり返ることができました。話の聞き方(ロジャースの三原則)をもとにして、子ども一人ひとりとかかわり、支援していきたいと思います。【幼】
・シチュエーションワークでは、どうしても問題解決の方に話をもっていってしまいました。日頃からこのような会話になってしまっているなと反省しました。話し方や態度一つで、子どもに負担をかけてしまうことも、逆に心を開くきっかけにもなると感じます。自分の癖になっている会話の仕方を意識して変えていきたいと思います。【小】
・「話を聴くことを大事に」と日頃から感じてはいるものの、なかなか時間をとれずに教師がアドバイスを一方的にすることで終わってしまうことが多いです。時間が限られている中で困難かもしれませんが、本日教えていただいた視点を活かしたいと思いました。【中】